

元田拓海さん（花き1年）、意見発表で最優秀賞を受賞！
 ～九州地区農業大学校プロジェクト・意見発表会（令和3年1月13・14日）～



本来ならば沖縄県にて開催される予定だった本年度の標記大会は、ZOOMによるリモート発表での開催となりました。九州地区8県の農業大学校から、意見発表に8名、プロジェクト発表に養成部門16名、研究部門2名が代表として発表を行いました。本校からは、意見発表で花き1年元田拓海さん、プロジェクト発表で野菜2年中神仁志さん、酪農2年宮崎由紀さん、研究科の市原朱沙さんの4名が素晴らしい発表をしました。

審査の結果、元田拓海さんは意見発表において最優秀賞を見事受賞し、2月に開催されます全国大会の九州ブロック代表に選出されました。

マルクト
野菜部「Markt」
くまもと県版GAPで28品目を認証

「くまもと県版GAP（ギャップ）」は、県内農業者の食品安全、環境保全、労働安全に配慮した農業の実践につなげることを目的に創設されました。

今回、農業大学校では野菜部「Markt」の18名と教職員が一丸となり野菜の安全安心な農産物生産に取り組み、認証を取得しました。品目数は本県では過去にない28品目となりました。この成果に学生は大いに喜びと同時に、将来の農業経営に生かす意欲で卒業を迎えることとなりました。



卒業に寄せて

熊本県立農業大学校長 中村 秀朗



42期生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

2020年は、新型コロナウイルス感染防止のため、色んな事が制限された一年でした。学生の皆さんは、私たち以上に辛い日々を過ごされたと思います。コロナ禍の中、人と人の距離が遠く、辛抱することが多かったですが、よく頑張ってくれました。

思い返せば、この2年間、なんと早かったことかと感慨深いことでしょう。

農大で学んできた皆さん一人ひとりの心のどこかに、校訓「自覚、自彊、自啓、自治、自尊」を記憶し、卒業しても決して忘れないでください。

これから皆さんは、社会人となり直面するであろう、様々な困難や壁の前に、失敗を恐れず、自分の可能性を信じて、あきらめずに前向きに進み続けてください。

皆さんが、今日、農大を巣立ち、社会に飛び込み、それぞれの分野で、人々の役に立つ人材となって活躍していただくことを期待しています。

そして、ここまで育てていただいた親への感謝を忘れないでください。少しずつ親孝行をしてください。

最後に、皆さんが幸せで充実した人生を送られることを心より願い、私の贈る言葉といたします。がんばってください。

卒業を迎えて ～農大42期生～

農産園芸学科(農特産コース)

福屋 直希

農大では、稲や葉タバコなどの生産に関する実践的な技術や知識を学びました。また、2年間の寮生活では多くの仲間恵まれました。卒業後は地元あさぎり町で就農します。これからも仲間を大切にして、熊本の農業を盛り上げていきます。



農産園芸学科(花きコース)

福田 ちひろ

高校は普通高校でしたが、花に関する仕事をしたくて農業大学校に入学しました。農大ではカーネーションの栽培に取り組み、70品種の品種比較、微生物資材の開花に与える影響、LEDの開花促進や害虫防除の効果などを研究しました。

毎日の花の管理はとて大変でしたが、花が咲いて収穫する時の喜びに代わるものではありません。卒業後は、花や園芸用品の販売店に就職します。これからも花を通じて人を笑顔にする仕事を続けます。



農産園芸学科(果樹コース)

村上 奨真

農大の2年間で、農業に関する多くの知識や技術を学ぶことができました。卒業後は我が家に就農します。農大で身に付けたみかん栽培の知識や技術を活かし、自分自身もっと成長できるように頑張ります。



野菜学科(野菜Aコース)

池田 優大

農大では、野菜の実践的な技術や知識を学びました。就農してからは農大で学んだ事を生かして頑張っていきます。また2年間共に過ごした友達を大切にしたいと思っています。



野菜学科(野菜Bコース)

西本 由紀

農大で出会えた仲間は私にとってかけがえのない存在です。寮生活も楽しくて毎日充実していました。卒業後は農業法人に就職します。農大で学んできた知識や技術を活かし、さらに磨いていきます。2年間ありがとうございました。



畜産学科(酪農コース)

井上 礼羅

私は卒業後、出身地である長崎県佐世保市にある「さとむら牧場」に就職する予定です。プロジェクト学習では生乳生産動向の調査を行いました。が、「さとむら牧場」では自家工房でチーズを作られていることもあり、このプロジェクト学習は自分にとって大きな財産になりました。酪農だけに限らず、農業は可能性に満ちた職業だと思うので、今のうちからできるだけ多くの知識を身に置き、将来的な自分の可能性として見出せるように多くのことに取り組みたいと考えています。



畜産学科(肉用牛コース)

丁 靖洋

農大の2年間で農業に関する多くの知識や技術を学ぶことができました。特に2年生では、長期の農家派遣研修があり、学校では学ぶことのできない実践的な学習ができました。

卒業後は、地元の牧場へ就職し、繁殖牛及び子牛の管理を担当します。農大で得た知識や技術、人脈や友達を大切にし、熊本の農業の更なる発展に貢献していきます。



仕事は「Picts(ピクツ)」で!

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。社会に巣立つ皆さんに、私が仕事をするうえで大切にしていることを伝えたいと思います。

- ① P (person, passion)
- ② i (idea)
- ③ c (collabolation)
- ④ t (timing)
- ⑤ s (speed)

意味は考えてみましょう!
社会に貢献する人財となってください。

農学部長
橋口 英伸



研修を終えて ～新規就農支援研修(16期生)～

プロ経営者コース

岩下 岳樹

研修を経て1番良かったことは、同じ道を志す仲間が出来たことです。農業を続けていく上で、仲間の存在が大きな力になります。

研修では、栽培管理はもちろん農業機械なども学ぶことができ、とても為になりました。これからも技術や経営感覚を磨き、早く一人前の百姓になれるよう頑張ります。



実践農業コース

柿本 一人

八代市東陽町で生姜栽培農家になるために、この研修を受けました。

色々な研修生、諸先生方、先輩方と繋がりが出来た事は、一生の宝物になりました。

今後は経営者として、さらに知識や技術を習得し、地域農業の発展に頑張ります。



令和2年度プロジェクト発表・意見発表

省力が期待できる 促成トマトの誘引法の検討

● 野菜学科(野菜Bコース2年) 中神 仁志

私は農大卒業後親元就農し、トマト栽培を継承する予定です。そのため、誘引方法による作業効率化が必要と思ひ、省力化が期待できる誘引法について検討しました。

その結果、作業性に加え、商品果数・収量の点からNターン誘引が最も優れる誘引法と判断され、就農後は本格的な導入に取り組みたいと考えています。



熊本農大における 適正なTMR調製技術について

● 畜産学科(酪農コース2年) 宮崎 由紀

熊本農大では、搾乳牛に発酵TMRを調製・給与していますが、細断長が長いことにより残餌の量が多くなっていました。そこで、TMR調製の切断・混合時間を調べ、最適な粒度のTMR調製技術の見直しを検討するプロジェクトに取り組みました。その結果、切断・混合時間を60分とすると最も推奨値に近いことがわかりました。今後、すべての項目で推奨値を満たすためには、粗飼料と濃厚飼料を分けて切断・混合し、更に適切な時間割合を検討する必要があると考えられました。



田野を元気に!! ~地域のリーダーをめざして~

● 農産園芸学科(花きコース1年) 元田 拓海

我が家はスプレーギクの電照栽培を行う専業農家で、将来キクを含めた多品目の花き栽培を行う農業法人を設立したいと考えています。過疎化の進む地元を守っていくために、地域住民と連携し、地元の観光資源を生かした「農泊」等に取り組むとともに里山を守り後世へ引き継いでいくため鳥獣被害防止対策を推進するリーダーとなれるよう、農大での勉強や資格取得に取り組めます。



審査講評

● 副校長 川口 靖浩

意見発表は、将来の具体的な夢や目標の実現に向け、思いや頑張る姿、何を学んでどう感じているかなどがよくわかりました。プロジェクト発表は、生産現場の改善に活かせる課題設定であり、新技術の導入や熱心な観察や調査、結果分析がされ、考察では経営分析をして成果を分かりやすくするなど、発表者の努力が感じられました。



新学生会役員の抱負

会長/杉谷 薫

畜産学科(肉用牛コース)

第43期生の学生会会長になりました杉谷薫です。

私は、これまで先輩方が積み上げてきた県立農大の歴史を次の世代にも繋いでいくことを一番に頑張りたいと思っています。また、それを実現させるためにも、学校内が勉強しやすい環境になるように努めていきます。

短い任期ではありますが、一生懸命がんばっていきます。よろしくお祈りします。



副会長/野口 春花

畜産学科(酪農コース)

この度、学生会副会長を務めさせていただくことになりました野口春花です。

受け継がれてきた熊本農大の伝統を守っていくとともに新しい農大を作っていくよう努めてまいります。1年間よろしくお祈りします。



副会長/三池 竜生

農産園芸学科(農特産コース)

この度、副会長を務めさせていただくことになりました三池竜生です。

全力で会長のサポートをして、農大をより良い学校にできるような学生会が中心となって頑張りたいと思います。1年間よろしくお祈りします。



第43回 黒石原祭

学園祭実行委員長 野菜学科野菜Bコース2年 寺田 信太郎

「食」を支える若人達 今こそ輝け! 黒石原祭」のスローガンのもと、令和2年11月15日(日)、新型コロナウイルス感染対策を講じ、参加者を保護者等に限定し開催しました。

バザーや青空市場では、参加者の減少に伴う販売予測に基づき各々出品調整を実施していたものの、当日、更なる対応が必要になるなど、例年通りにはいかないこともありました。しかし、農大生ミニ講座やステージイベントなどは例年通り取り組むことができ、様々な学校行事が中止になるなか、農大生活での良い経験となりました。

来年度も新型コロナウイルス対応は必要となってきますが、より多くの皆様に御来場いただき、学生との交流を楽しんでいただけるよう企画を考えていきたいと思います。



農業者の学び直し現場

「くまもと農業アカデミー」

くまもと農業アカデミーでは、県内の意欲ある農業者を対象に、農業に関する知識や技術等を学ぶ講座を開設しています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じる中で、インターネットを活用した講座を拡充し、動画配信や双方向型の通信講座開設など、自宅からオンラインで受講できる環境を整えました。県内各地での集合型講座とオンライン講座とを併せて24講座実施し、多くの皆さんの学びを支援して好評を得ました。





2年生農家派遣研修

令和2年10月15日(木)から30日(金)まで、61名の学生が県内各地の指導農業者他先進的な農業を営まれている農家で宿泊研修を行いました。

16日間にわたり、農家から直接栽培管理技術や経営理念を学ぶ機会を得て、「大学校では経験できないことを実践できた」、「農業の厳しさ、大変さを学んだ」等、農家派遣研修でしか得られない学びを得て、今回も充実した研修となりました。

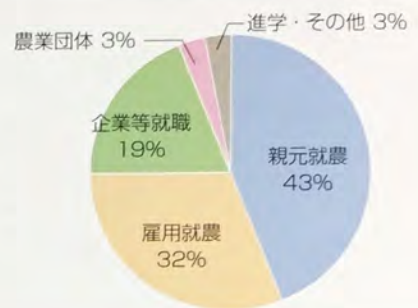
新型コロナウイルス感染症の不安がある中、快く受け入れていただいた農家の方には、改めて感謝申し上げます。

令和2年度(2020年度)卒業生の進路状況 (R3.2.19現在)

令和2年度(2020年度)卒業生(72名)のうち、親元就農が31名、農業法人等への雇用就農が23名で、就農率は75%となりました。

企業等への就職は、農業団体2名、農機関係3名、市場関係5名、食品関係その他7名の計17名です。

進学は東海大学農学部のみです。



免許・資格取得状況 (R3.1.28現在)

昨年度から始まったドローン・マルチコプター操作上級研修を12名が受講しています。また、小規模ボイラー取扱者講習の受講者が増えています(前年9名)。

免許・資格の種類	42期生	43期生
毒劇物	2	3
危険物取扱者(乙種・第4類)	0	1
小規模ボイラー	7	25
小型建設機械	-	12
無人ヘリ中級	4	-
ドローン・マルチコプター中級	-	27
ドローン・マルチコプター上級	12	-
大型特殊(農耕車限定)	5	56
けん引(農耕車限定)	62	-
フォークリフト講習	32	15
フラワー装飾技能士3級	0	*
家畜人工授精	23	-
アーク溶接	10	14
農業技術検定2級	0	3
農業技術検定3級	0	3
農作物鳥獣被害対策実務者	0	10
家畜商	0	17

「※」新型コロナウイルスの影響で検定試験の実施が遅れたため合格者は未定。
「-」は受験できない学年。

令和3年度入学者の志願状況

学科名	定員	コース名	推薦	一般	合計
農産園芸	30	農特産	5	5	10
		花き	4	0	4
		果樹	8	2	10
野菜	30	野菜	40	10	50
畜産	20	酪農	7	2	9
		肉用牛	14	2	16
合計	80		78	21	99

※令和3年度入学の志願者は、定員80人に対し合計99人でした。

地域に根ざした「農大マルシェ」がお陰様で来場者数2500名を超える。

令和元年6月に農大正門横にマルシェがオープンし、2年目を迎えました。来場者の温かい雰囲気の中毎週金曜日の13時30分オープンには、常連客の行列ができ、その日のラインナップを見ながら品定めをし、そして学生の誘導のもと農産加工品を購入されています。お客様の中には毎回来場されている方もおられ、農大生への販売力や農産物生産の向上に期待を寄せられています。

